

創立 70 周年を迎えて

学校法人天使学園 理事長 近藤 潤子
天使大学 学 長 武藏 学

天使大学は、「マリアの宣教者フランシスコ修道会」により、戦後まもない1947年に札幌天使女子厚生専門学校（旧制度の専門学校）として設立されました。1949年に天使女子栄養学院が開設され、その後、1950年に看護教育では初めての学校教育法第1条による天使厚生短期大学に改組し、さらに1952年に栄養科を開設、また天使助産婦学校を設立し、1954年には天使女子短期大学に名称を変更し、1965年には日本で初めての短期大学専攻科として保健婦助産婦合同課程を開設しました。そして、2000年には地域社会や同窓生等関係者の皆様の熱い要望に応え、4年制の学士課程に改組転換して天使大学となり、その後日本で初めての専門職大学院助産研究科をはじめ大学院看護栄養学研究科の設置も進め現在に至っています。



創立時の木造校舎

本学はカトリック系大学として、教職員の努力と関係者の深い理解と協力のもと、長い伝統と建学の精神に基づく特色ある教育を推進し、看護師、保健師、助産師、栄養士及び管理栄養士の優れた専門職業人を養成し、創立以来のべ10,000名以上の卒業生を社会へ送りだしてきました。多くの卒業生が医療や福祉等の現場において、本学で身につけた知識や技術、他者に奉仕する精神を生かし、国内はもとより世界の各地で人々の生活支援に貢献する専門職業人として実践的社会貢献をしています。

しかしながら、近年、少子化や超高齢社会の到来、18歳人口減の進行、大学の急増により大学全体を取り巻く環境は一段と厳しくなっており、本学にとってもこのような問題への対応が喫緊の課題となっています。

このたび、2017年に創立70周年を迎えます。建学の精神「愛をとおして真理へ」の源はマリアの宣教者フランシスコ修道会の7名の修道女が身をもって示された人間愛の教えにあります。創立70周年を契機に、本学の使命や教育理念をいっそう明確にし、学部・大学院の規模、教育・研究体制を強化し、質の向上を図り、今後日本が目指す未来社会や世界の最前線で貢献する人材を育成するとともに、魅力ある大学づくりに向けた将来構想の検討も併せて進めます。



ローマから札幌に派遣された7名の修道女

このように創立70周年記念事業は本学の将来構想を包含しその実現に向けた取組であり、さらに2020年には天使大学開学20周年も控えています。本学は長い間、校舎の修理・増改築、学生支援、教育研究体制の強化等にそなえてたゆまぬ努力を重ねてまいりましたが、周年を記念して、強力にこれらの推進をはかりたいと関係者一同の切なる願いであります。本学の将来の発展に向けて事業の趣旨にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

出会いと親睦のゼミ

出会いと親睦のゼミに参加して

看護学科1年 山田 穂代

私は天使大学に入学して思ったことがあります。真理、愛、人間、祈り、神。この言葉はよく耳にしますし、使います。ただ「私は本当にこの言葉を理解しているのだろうか。理解しないまま授業を受けて良いのだろうか。」私がなぜこの言葉にこだわるかという天使大学の建学の精神に使われていたり、先生方や神父様、シスターのお話で出てくるからです。この出会いと親睦のゼミでは未熟な私なりに答えを見つけてきました。

ゼミでの最初の講話では、学長の武蔵先生が建学の精神についてお話ししてくださいました。「愛をとおして真理へ」という言葉はキリスト教の考えに基づいたものです。愛がなければ行動も言動も意味がなくなってしまふほど愛は大切であり、時を越えて継承されていくのだとわかりました。建学の精神は「愛を持って初めて全てのことの意味が生まれる」ということを伝えようとしているのだと考えました。



グループワーク

次にシスター和田先生がこれから自分とどう付き合っていくべきかをお話しして下さいました。どうしても人は過去の自分や他人と比較してしまうものです。しかし、それは神に失礼なことです。神はみな平

等に作ったのですから。そうではなく、今の自分の心の自分と向き合うことが大切で、それは力になるのだと教えていただきました。天使大学で祈る時間が多い理由は自分を見つめ直すことが勉強などに対する強みになるからだと感じました。とはい



ろうソクを使ってる内省

え、私はまだ心が弱く、すぐ人と比べてしまいます。祈ることの意味を理解できるよう努力していきたいと思います。

川口先生は「愛は関心である」とおっしゃっていました。疑問を持つ、考え続ける、自分で創造する、友達と意見交換する。関心を持つことでのような道が自然とできます。また、疑問を見つけるのは自分自身ですから、関心は能動性を生むのです。

みなさん、愛を持ってみませんか？私は全ての学問に愛を注ぎ、幅広い視点から患者さんを観察できるようになりたいと思います。そして全ての人に愛を注ぎ、相手の心を優しく包みこみ、道を示してあげられるような看護師になることを目指して大学生活を送りたいと思います。

出会いと親睦のゼミを通して

栄養学科1年 橋場 彩奈 松川 理佳

天使大学に入学して、1泊2日の「出会いと親睦のゼミ」がありました。この行事は新しい友達との交流を深めるものであり、私たち2人もこのゼミを通して出会いました。また、今後の大学生活や将来の目標についてあらためて考える宿泊研修でした。

不安な気持ちを抱えながらも、同時に今後への期待と意欲を持って研修施設に向かいました。施設に着いてすぐ、本学の歴史の講義を受け、また学科別の自己紹介の時間では、一緒に学ぶ仲間たちについて知ることができました。夕方にはレクリエーションがあり、学科の壁を越えて1年生全体で仲良くなるきっかけにもなり、とても楽しいレクでした。



出会いに感謝するミサ

その後、建学の精神についての講義を受け、一人ひとりろうソクに火を灯して感謝の気持ちや私たちの想いをケン神父と共に祈りました。研修室の明かりを全て消し、ろうソクの火だけが灯る光景は、

幻想的なものでした。

宿泊部屋では同じ目標に向かって頑張っていく友達と和気あいあいとしたおしゃべりをしました。入学直後でしたが、まるで昔からの仲のような楽しい時間を過ごすことができました。



武蔵学長による講演

2日目は、川口先生による

本学で学ぶ意味についての講義を受け、専門職である看護師、管理栄養士になるという決意を固めました。そして研修最後に学科別のグループワークをしました。私たち栄養学科では、約8人ずつのグループに分かれて「天使大学で栄養学を学ぶ」について、食を通して愛を伝えることを考えました。そのグループワークのなかでお互いに共通した意見や、自分にはなかった視点や考え方に触れ、自己のステップアップに繋がる良い経験ができたと思います。

このゼミがあったからこそ、私たち2人も親睦を深めることができました。レクリエーションなどで学んだチームワークの大切さや、将来のために勉強することの意義を忘れずに、今後も精進していきたいです。

新任教員の紹介

助産研究科	教授(特任)	和田 サヨ子	助教	須貝 麻由美	助教	村上 歩
看護学科	准教授	木津 由美子	助教	加藤 千尋	助手	秋山 雅代
栄養学科	教授	菊池 直哉	教授	進藤 正信	准教授	志賀 一希
	助手	金 加奈子	助手	丁 ゆかり	助手	池田 祐佳里

海外研修に参加して

文化の相違点から学んだこと

看護学科4年 中野 菜々



セントルークス病院の見学

私はホームステイの体験を経て初めてほかの国の文化を体験し、様々な違いに戸惑いを隠せませんでした。例えば、シャワールームとトイレが一緒になっている中で、私はゆっくりとシャワーを浴びて着替えをしていましたが、「トイレに行きたくて我慢してたのよ!次は10分以内に済ませてね」と怒られてしまいました。日本では、トイレとシャワールームが一緒になっていることは少ないので、私はトイレを使いたい人がいるかもしれないということを思いつきもしなかったのです。他にも、ホストファミリーへの感謝の気持ちとして茶碗洗いやお掃除の手伝いをしたかったのですが、「あなたはお客。これは私がするの」と笑顔で断られたりもしました。

初めのうちはこのような文化や考え方の違いから戸惑うことが多かったのですが、日本ではこうなんだと伝えたり、ホストファミリーはどうしてほしいのかを聞いたりすることで、生活が楽しくなってきました。自分から自分の気持ちを伝えたり、質問を投げかけたりすることでホストファミリーとも仲良くなれたのだと思います。

私はホームステイの体験を経て初めてほかの国の文化を体験し、様々な違いに戸惑いを隠せませんでした。例えば、シャワールームとトイレが一緒になっている中で、私

自分の中で当たり前と思っていることが多々通じなかったこと、また逆に相手の当たり前を自分が知らないことで、無意識のうちに自分に固定概念にとらわれているかに気づかされました。私はこれまで「患者さんをそのまま理解しよう」と考えながら実習に挑んできましたが、今回の海外研修での体験を通して、自分が気づくことができていない相手の価値観もあることが理解できました。今後は患者さんがその人らしく過ごせるように援助していくために、現在の気持ちや病気への思いはもちろん、患者さんが生活の中で大切にしていることや考え方にも目を向けながら患者さんがどのような人なのか捉えていきたいです。また、今回の体験を通して、信頼関係を築くためには相手の気持ちを理解するだけではなく、自分についても相手に伝えていくことが必要だと気付くことができたので、今後は患者さんを理解しようとするのと同時に、私はこんな人間ですと伝えることも心掛けていきたいと思っています。



ロンドンのバーでの夕食

イギリス文化とladybird

栄養学科3年 川原 みなみ

小学生の時に20歳のとき自分は何をしているかという質問に「イギリスに留学に行っている」と書きました。このことは帰国してから思い出しました。思い出したとき、有言実行できてしまったことに自分で自分に感動していました。



ホームステイ先にて

イギリスでは文化の違いに驚かされてばかりいました。一番大きい違いは食文化の違いです。イギリスにはお弁当箱というものがなく、ビニール袋にサンドイッチとバナナ・リンゴなどの皮つき果物と小袋のポテトチップスが入っているものが一般的でした。また、主食はパンやジャガイモなので、7日目を過ぎたころに白飯と納豆と味噌汁を無性に食べたくなりました。

お店の閉店時間が早いことにも驚きました。ステイ先のプリマスのお店は基本18時に閉店します。毎日21時や22時まで営業している日本の状況に慣れている私たちにとって不便だと感じましたが、日本人が過労働だと言われていることについて考えさせられました。また、家族との時

間を重視しているから閉店時間が早いのかなと思いました。毎日は無理だけれど、週に一回は日本もこういう日が当たり前になればいいのと思います。

病院や大学の見学では医療制度の違いなどを学びました。イギリスではかかりつけ病院で受診しないと大きい病院で受診することができないので、精密な検査や専門の治療を受けるには時間がかかるという問題がありました。日本とイギリスの医療制度の違いを学び、それぞれの医療制度の良し悪しを理解し、改めて医療制度は複雑なものだと感じました。

この海外研修に参加して良かったことの一つに看護学科の学生との関わりができたことがあります。普段話す機会や関わる機会がない看護学科の学生と研修中に沢山話することができ、帰国してからも学内で挨拶や会話をするようになったことがとてもうれしいです。

ステイ先の家でテントウムシが大量発生するというハプニングもありましたが、今になってはそのこともいい思い出になりました。イギリスで学んだことや感じたことを忘れずにこれからの生活に活かしていきたいと思っています。



ladybird (テントウムシ)

震災ボランティアの報告

震災ボランティアに参加して

栄養学科4年 蛭澤 穂果

春期休暇とゴールデンウィークを利用して、移動日を除き合計9日間のボランティア活動を行いました。東日本大震災後に発足し、全国からの震災ボランティアの受け入れを行う一般社団法人「三陸ひとつなぎ自然学校」(以下、さんつな)を通じて活動しました。さんつなは岩手県釜石市を拠点とする団体で、主に子どもに関わる活動を行っています。



ボランティアに誘ってくれた石山さんと子ども教室

この訪問の大きな目的は、子どもたちが安全に遊べる場所を提供することを目的とした「放課後子ども教室」で栄養教育とおやつづくりを行うことでした。石山さんが企画したもので、私は媒



子ども教室の様子

体づくりと当日の調理補助を行いました。子どもたちは人懐っこくてとても元気でした。栄養のお話には興味を持ってくれて、調理作業も積極的に行ってくれました。私はこれまで子どもと接する機会が少なく、子どもは苦手と思い込んでいました。しかし一緒に遊んだり話したりするうちに、子どもたちの無邪気さや純粋さに魅力を感じるようになりました。コミュニケーションの難しさにもどかしくなることもありましたが、物事に対する姿勢を考え直す機会をくれたり元気を分けてくれたり私を成長させてくれる存在でもありました。子どもたちにとっても私の存在がプラスになるように、今度は自分で企画を持っていき子どもたちの役に立つことをしたいと思っています。

また東日本大震災の発生から6年目となる3月11日の活動にも参加することができました。活動場所は根浜海岸という松林のある国立公園です。根浜は3月11日の津波によって多くの方が亡くなった地区です。落ち葉を清掃して道をつくり、その両端にまつぼっくりとキャンドルを並べ「まつぼっくりロード」をつくりました。夜にはキャンドルのライトアップも行いました。このほか地震発生時刻の14時46分には黙とうを行い、「甚句」ではご家族を亡くされた方のお話し、さんつなスタッフの方



根浜海岸での追悼

らは津波から避難した時のお話しを聞かせてもらいました。新聞やテレビで被災地の様子を見ることはあつ

ても、実際に被災した方のお話を聞くのははじめてでした。どれほどの苦痛であったか、お話から想像するだけで心が締め付けられるものでした。震災の日から6年がたち、街は着実に復興に向かう反面、強い悲しみと後悔を経験した人々の苦痛はいまだに消えていないということを感じました。また地域全体の意識として、自然災害への対策を子どもから高齢者まで広く共有することが大切であるということがわかりました。

ゴールデンウィークには単身釜石へ向かい、4日間の活動に参加しました。台風10号の被害を受けたお宅の泥のかき出し作業や、多くの犠牲者が出た旧大槌町役場や防災センター跡地の見学をしました。現在、津波の被害を受けた当時のままの状態



台風10号での被害を受けた家屋の泥出し

残されている旧大槌町役場は、保存を望む声と取り壊しを望む声の両方あり、大きな課題となっています。旧役場に来ると亡くなった人に会える気がするから保存したいという住民と、見るたびに被災の記憶と亡くなった人を思い出すから取り壊したいという住民がいるのです。保存しても取り壊しても誰かが苦しむことになるこの課題の解決は非常に難しいものです。震災に関する課題は依然として残っていることがわかりました。

被害が大きかった地区に新設された道路では、カーナビが全く役に立たないというお話しも印象に残っています。震災前は家のあったところが埋め立てられて道路になっていたり、短期間で何度も道路が作り直されたりしています。対応していないカーナビでは道のないところを走っているように見えるのです。釜石市出身のさんつなスタッフの方は、家があったところに家がなくなり、曲線だった国道が真っ直ぐになってしまったこととても違和感があるとお話しされていました。復興が進むということは、見慣れた地元の風景が目まぐるしく変わってしまうことでもあると気づかされました。

9日間釜石市に滞在してボランティアを行う中で、さまざまなことを学び多くの経験をすることができました。釜石市はとても魅力的な街です。海も山もあって、自然が美しい街です。また行動力や発想力に優れた人たちがたくさん集まる場所でもありました。一度のつもりで参加したボランティアですが、人生を変えるようなお話や出会いがあり、人とのつながりも増え、目標や課題が見つかる大変貴重な経験となりました。お世話になった三陸ひとつなぎ自然学校の皆様、活動中に関わった皆様、被災地に行きかけをくれた石山さん、助成してくださった同窓会の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



錆びた郵便ポストの塗り替え



塗り替え作業中

夕張地域医療体験に参加して

在宅医療とは

栄養学科4年 増子 美保 米原 夢乃

夕張地域医療体験に参加し、3日間という短い実習期間ではありましたが、在宅医療について深く学ぶことができました。

3日間のスケジュールが決められており、午前中は在宅の医療現場に訪問させていただきました。訪問診療、訪問看護、訪問薬剤、作業療法と4つの分野に分かれており、それぞれの仕事内容やどのようにして連携を取っているかを、他職種合同のグループで訪問し、異なった視点で仕事を見学することができました。

午後も在宅の医療現場に訪問し、それが終わると次は講義の時間に入りました。講義でも医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等各専門分野の先生からお話を聞くことが出来ました。すべて在宅医療に関する講義で、先生が実際に感じていることや大切にしていることがわかり、在宅医療がどのようなものかという理解を深めることができました。また、3日間のうち1日だけ老健の昼食を見学させていただきました。実際に食事しているところ、または食後にお話を聞き、対象者が感じていること、食事に関することはもちろん、普段何をして過しているのか、どんなことが好きなのか等様々な質問をすることで、何を話しているときが一番楽しそうか、という少し発展した考えを持つことができるようになり、

一歩前進できたと思います。

講義が終わると宿泊施設に移動し夕食をとり、前文でも触れたプレゼンの準備を行いました。プレゼンのテーマは、「在宅（地域）医療とはなにか」「在宅医療でのそれぞれの専門職種の役割」「今後の在宅医療の発展」、以上の3つについて話し合い、模造紙2枚分にまとめました。学年、大学、学科すべて異なる人が集まったグループで話し合うことで、それぞれ同じ考えを持つ部分もあれば異なる部分もあり、お互いに刺激を受けながら、プレゼンの内容、能力も高く、吸収できるところはすべて吸収し、今後の自分たちの糧にしたいと思いました。

在宅医療は、学内の実習では経験することができないため、大変なためになりました。また、他職種の仕事を見学する機会はなかなかないため、新たな知識を増やすことができました。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



研修者の集合写真

在宅療養者と接して

看護学科4年 平澤 彩音

私は、今年の3月に北海道薬科大学と天使大学共催の夕張地域医療体験に参加し、療養者が自宅での生活を続けるためにどのように援助しているかの実際を知ることができました。

その中でも、特に病院と訪問ステーションとの密な連携による退院支援について興味を持ちました。その理由は、病気を持ちながらも自宅で暮らす療養者の姿を見て、自宅復帰への願望を強く持っていたことが想起されたからです。「住み慣れた家で暮らしたい」という患者の思いを叶えるためには、入院中における退院支援が重要であると思いました。実際に訪問させていただいた家庭では、自己管理しながら一人で暮らしている方や、妻に介護されて暮らしている方など様々な状況で生活をしていました。訪問看護師は、療養者と信頼関係をもって短い時間の中でケアを提供していました。

このような在宅でのケアを実現させるためには、訪問看護師が療養者・家族の状況を理解してその方に合った適切な看護をすることが必要であると思います。

そのためには、入院期間中から病院と情報を共有し、その方の望む暮らしや必要としている援助について理解しておくことが重要となるのだと思います。

同行訪問させていただいた訪問看護師の方は、病院とステーションが同じ組織によって運営されていることがスムーズな連携に繋がっていると話していました。そのため、自宅に帰りたいたいという患者の希望を実現するためには、入院中から取り組むことのできる退院支援として、訪問看護ステーションとの連携を図ることが重要であると考えられます。

今回の夕張地域医療体験から、地域医療の現場における実際を知ることだけでなく、札幌市で暮らす人々への看護へと通ずる自宅復帰への支援について考えることができました。入院患者のほとんどが持つ自宅復帰への希望を実現するために、入院中から自宅での生活を考えた看護をしていきたいと考えようになりました。



訪問させていただいた家

公開講座

2017年度

天使大学・北海道薬科大学
連携公開講座

道民カレッジ連携講座 健康・スポーツコース 7単位 全体テーマ：いのちみつめて

医療、薬学、看護学、栄養学の各分野から、生活に役立つ情報をわかりやすく解説します。

日程：2017年8月24日～9月21日 ※8月31日(木)のみ、会場は北海道薬科大学
毎週木曜日 ①、③、④、⑤18：00～19：30、②10：00～11：30

回	日程	講演題目・講師
①	8月24日(木)	子育て支援 天使大学大学院助産研究科 教授 今崎 裕子
②	8月31日(木)	くすりを正しく使用するために 北海道薬科大学 准教授 町田 麻依子(会場：北海道薬科大学)
③	9月7日(木)	孫そだて 天使大学看護栄養学部看護学科 教授 蝦名 美智子
④	9月14日(木)	超高齢社会と在宅医療 北海道薬科大学 教授 古田 精一
⑤	9月21日(木)	日本人の長寿を支える健康な食事を考える 天使大学看護栄養学部栄養学科 准教授 清水 真理

定員：一般80名〔先着順〕

受講料：全5回分 1,000円（郵便局所定の用紙で振込）

申込期間：2017年7月3日（月）～7月31日（月）

申込方法：郵便局所定の振込用紙をご使用ください。参加希望される方の郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号を記入し、通信欄に必ず「公開講座」と明記のうえ、上記期間内に、下記の口座、加入者宛に受講料1,000円をお振り込みください。

口座番号 02710-5-6907

加入者名 天使大学

主催：天使大学・北海道薬科大学

後援：札幌市教育委員会、公益財団法人北海道生涯学習協会

お問合せ先：天使大学公開講座担当：学務課（内線605）

☎ 011-741-1051 e-mail: c-koza@tenshi.ac.jp

2017年に帰天された天使助産婦学校教務主任・天使女子短期大学専攻科長 故 マルガリータ 齋藤和子先生を偲ぶ

学校法人天使学園理事長（厚生科4回生） 近藤 潤子



齋藤先生と幼子

齋藤先生は1948年、37歳の時、日本赤十字女子専門学校を退職され、看護婦として天使病院の内科病棟に赴任されました。私は1950年に天使厚生短期大学の1期生(厚生4)として入学したので、先生が赤十字のマークの付いたキャップをかぶったお姿を鮮明に憶えています。天使においでになる2年前までの10年間、皇太子殿下(現・天皇陛下)の傅育官をされた方ですから、本当に言葉づかいもマナーも洗練されていて私たちとは次元の異なる女性でした。そういうことに慣れていない私たちに、言葉

づかいや礼儀作法などたくさんを教えてくださいました。

天使助産婦学校の設立に備え、先生は1951年に上京して厚生省の助産婦学校専任教員講習会を受講されました。そして翌年の開校後は教務主任として、助産婦教育課程を長い間担当されました。開校当時、教室は病院と寮の間にありましたが、学校と病院とで教育、指導をなさっていました。私は短大卒業後、天使病院に勤めていた4年半は総婦長室で学生の実習計画の作成や、同じ職員寮でしたので、朝夕にご一緒させていただきました。次の機会は、1964年でした。翌年の1965年に天使女子短期大学専攻科の保健婦助産婦合同課程が開設され助産婦学校が改組されることになり、齋藤先生が助産婦課程、私が保健婦課程の担当として、開

設準備に取りかかりました。当時、保助看法は厚生省、短期大学は文部省の管轄だったので、両省の条件を満たすべく、私たちは協同作業で何度もカリキュラムを作り直しました。1年間の保助合同課程ですから実習時間も削減され、45例だった分娩例数が、専攻科では20数例に減ったことを齋藤先生は大変嘆かれましたが、超過密なカリキュラムになりました。

私は、博士課程進学のため退職しましたが、齋藤先生は一貫して責任者として専攻科を背負ってくださいました。手厚いケアを徹底していた当時の天使病院で、先生も学生指導のためにいつも臨床現場に出られ、献身的なケアをなさっていました。ご定年後も非常勤講師として引き続き教育、指導にあたられました。

先生は深い信仰をお持ちでした。かつての天使病院と寮は、修道院のチャペルにつながっていましたが、毎朝必ず御ミサにお出になられました。カトリックは性の教育を大切にしますが、受精の瞬間から命が始まるという基本的な考え方で、胎児の生命を大切にするという概念や、節制という形で家族計画などをご自身が積極的に学ばれ、それを学生やカトリック看護協会の仲間にご伝えてくださいました。

また、1961年に在俗フランシスコ会(第三会)に入会されましたので、清貧、貞潔の誓いを立て、自分を厳しく戒め、教えに従って生きることを生涯守られました。信念を持ってご自分が選択された生き方を105歳までしっかりと生き抜かれた、本当に見事な人生を全うされた先生でした。



助産婦学校8回生卒業式の齋藤先生

最上のわざ

この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとる、

働きたいけれども休み、

しゃべりたいけれども黙り、

失望しそうなときに希望し、

従順に、平静に、おのれの十字架をになう――。

若者が元氣いっぱい神の道をあゆむのを見ても、ねたまず、

人のために働くよりも、けんきよに人の世話になり、

弱って、もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であること――。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後のみがきをかける。まことのふるさとへ行くために――。

おのれをこの世につなぐくさりを少しずつはずしていくのは、真にえらい仕事――。

こうして何もできなくなれば、それをけんさんに承諾するのだ。

神は最後にいちばんよい仕事を残してください。それは折りだ――。

手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。

愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために――。

すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と――。

齋藤先生が手元に置いていたヘルマン神父様の著書からの詩

※引用元 著者 ヘルマン・ホイヴェルス

編者 林幹雄 一九六九年 人生の秋に (朝春秋社)

齋藤和子先生の思い出

厚生科 12 回生 助産婦学校 10 回生 西塚 和子

私は天使助産婦学校10回生にあたります。当時の天使病院は分娩数が年間3,000例以上ありましたので、私たち学生は、年間100例以上のお産をとることができ、寝る間もなく実習を行いました。そんな中、和子先生は、昼間は学校の教務主任として学生に教え、夜はお産があると産婦さんに一晩中付き添い、先陣を切ってケアをされていました。お忙しい中、ガールスカウト運動を推進されたり、日本看護協会助産婦部会の北海道支部を結成して支部長に就任されたり、そういった活動にも熱心に取り組んでいらっしゃいました。

その後、天使女子短期大学専攻科長や助教授を経て1979年に68歳で定年退職されますが、その後も非常勤講師としてお勤めを続け、日本看護協会のお仕事などでもご多忙でした。そのまま職員寮で生活されていたので、私たち卒業生は、先生がずっと寮にいてくださるようなイメージを抱いていました。けれども75歳の時、サルコイドーシスによるぶどう膜炎という眼の難病を患い、視力がどんどん悪化したことから寮生活が難しくなり、79歳の時に大友敬愛園に入居されました。このホームを選ばれたのは、設立者の大友医師のホーム設立の経緯に感銘を受け、また、天使大学にも近く、栄養士も天使短大の卒業生という理由で、ご自身でお選びになったホームでした。

和子先生は視力をほぼ失われていましたので、教え子達が訪問して一度に話すとうからないということで、「あなたは何曜日に来てください。そして必ず隣に座り、名を伝えてからお話してください」という決まりを作られ、私たちの訪問曜日を振り分けてくださいました。私は日曜日にお伺いすることになり、80歳、90歳、100歳……と、20年以上にわたって毎週お会いし、お話をいたしました。先生は卒業生全員の名前をしっかりと記憶され、「何期生の誰々がお話をしに来てくださいましたよ」と教えてくださいました。

ご自身のプライベートはほとんど話されなかった和子先生ですが、100歳を過ぎるあたりから、ご家族のこと、故郷の福島や戦時中の宮内省での皇太子殿下(現天皇陛下)についてお話してくださいました。それをとても光栄に思いました。また、私が家族のことを愚痴ると、先生もお若い頃に嫌な事があったことをお話しされることもありましたが、すぐに「こういうお話はやめましょう。私が罪を犯してしまうことになりすから」と制止し、たしなめてくださいました。

和子先生が25歳で皇太子殿下(現・天皇陛下)の傅育官に命ぜられた時は、地元の福島で号外が出たそうです。幼い陛下がいつも「齋藤、齋藤」と先生の後を追いかけていらした、ご婚礼にもお呼ばられた、といった思い出もお聞きすることができました。

和子先生は在俗フランシスコ会の教えを厳格に守る生き方をされ、「清貧・貞潔で天皇陛下をいつも案じている生活で十分」とおっしゃっていました。そして和子先生が105歳で天に召された時、ご遺族には両陛下のおことばが伝えられ、葬儀ミサでは両陛下がお贈りくださった弔花も飾られました。そんな素晴らしい和子先生を目標として、私たちは頑張ってきました。ずっと先生の教え子でいられて、本当に幸せでした。全ての天使の卒業生のためにいつも祈ってくださっていた先生、ありがとうございました。これからも全卒業生のためにお祈りしてください。そして、守ってください。



御所勤務時代の齋藤先生

老いの心

ありがたい人々 好意の目で私を見

よろめく足どりに 同情し

遠くなった耳に大声で話かけ

ふるえる手をにぎりしめてくれる人

私の青春に興味を示めし

くり言に耳を傾むけ

人を恋しい気持を理解し

わずかでも時間をさいてくれる人

私の寂しさに気づき

苦しい時にそばにいてくれ余生を楽しませ

最期を看取ってくれる人

やがての日 終りのない命に入るとき

その人々のことを私は

主のもとで思い出すだろう

深い深い感謝と共に

齋藤先生が手元に置いていた詩

2016年度卒業式・2017年度入学式

卒業証書・学位記授与式が執り行われました

2017年3月15日(水)、2016年度卒業証書・学位記授与式が執り行われました。卒業生・修了生はアカデミックガウンと角帽に身を包み、武蔵学長から一人一人学位記を受け取りました。ご両親、教職員をはじめたくさんの人から祝福と励ましを受け、卒業生・修了生216名は、建学の精神「愛をとおして真理へ」を胸にこの学び舎から次の舞台へと歩みを進めました。



2017年度入学式が執り行われました

2017年4月4日(火)、2017年度天使大学・大学院入学式が執り行われました。看護栄養学部看護学科93名、栄養学科90名(3年次編入学2名含む)、計183名、大学院看護栄養学研究科5名、助産研究科16名、計21名の新入生が天使大学の門をくぐりました。

2016年度 進路・就職状況

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理学専攻
就職決定者	89	88	15	1	6
進学希望者	7	0	0	0	0
進路希望無し	3	3	1	2	1
卒業生	99	91	16	3	7

【看護学科】就職先

看護師		進学
国立病院 国立がん研究センター東病院 大学病院(国公立) ・北海道大学病院 ・札幌医科大学附属病院 ・千葉大学医学部附属病院 ・東京医科歯科大学歯学部附属病院 ・京都大学医学部附属病院 大学病院(私立) ・順天堂大学医学部附属 浦安病院 ・東京歯科大学 市川総合病院 ・聖路加国際病院	公立・公的・社会保険関係法人の病院 ・市立札幌病院 ・JA北海道厚生連 札幌厚生病院 ・JCHO札幌北辰病院 ・JCHO北海道病院 ・KKR札幌医療センター ・KKR札幌医療センター 斗南病院 ・国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 ・静岡県立静岡がんセンター ・横須賀市立うわまち病院 ・横須賀市立市民病院	福祉施設 ・札幌あゆみの園 一般病院 ・愛心メモリアル病院 ・札幌山の上病院 ・札幌積心会病院 ・札幌東徳洲会病院 ・札幌徳洲会病院 ・札幌北楡病院 ・札幌麻生脳神経外科病院 ・手稲溪心会病院 ・天使病院 ・東札幌病院 ・北海道消化器科病院 ・鎌ヶ谷総合病院 ・聖隷佐倉市民病院 ・東京警察病院 ・東京逓信病院 ・飯塚病院 ・淀川キリスト教病院
進路 ・天使大学大学院 助産研究科 助産専攻 ・天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻(保健師コース) ・札幌医科大学 助産学専攻科 ・北海道立旭川高等看護学院 地域看護学科		

【栄養学科】就職先

自治体	病院	保育園	調剤薬局	一般企業
・札幌市(栄養士) ・北海道(管理栄養士)	・愛心メモリアル病院 ・朝里中央病院 ・イムス札幌消化器中央総合病院 ・協立病院 ・札幌南一条病院 ・市立室蘭総合病院 ・耳鼻咽喉科麻生北見病院 ・静仁会静内病院 ・千歳病院 ・手稲溪心会病院 ・北海道循環器病院 ・北斗病院 ・吉田病院 ・北アルプス医療センターあづみ病院 ・新浦安虎の門クリニック ・武田クリニック	・麻生雲母保育園 ・札幌北陽保育園 ・さよ保育園 ・新琴似南保育園 ・澄川ひろのぶ保育園 ・大地太陽森の家保育園 ・ていねあすなろ保育園 ・幌北ゆりかご保育園 ・宮の沢さくら保育園 ・社会福祉法人高砂福祉会 ・社会福祉法人夢工房	・株式会社アインホールディングス ・株式会社ハートファーマシー ・株式会社メイプルファーマシー	・株式会社ライフア ・北日本調剤株式会社 ・株式会社ミューゼプラチナム ・株式会社モロロ ・株式会社ロイズコンフェクト ・株式会社生活の木 ・北館株式会社 ・国分北海道株式会社 ・生活協同組合 コーパさっぽろ ・東日本フード株式会社 ・ホクレン農業協同組合連合会 ・ホンザキ北海道株式会社 ・有限会社ブルクベーカーリー ・株式会社北海道銀行

入試結果

看護学科	栄養学科				助産研究科				看護学専攻				栄養管理学専攻(博士前期)										
	公募推薦	一般	センター	社会人	公募推薦	一般	センター	社会人	編入学	推薦	一般前期	社会人前期	一般後期	社会人後期	推薦	一般前期	一般後期	社会人後期					
受験者数(人)	61	285	184	12	受験者数(人)	58	100	77	1	4	受験者数(人)	7	10	2	4	1	受験者数(人)	1	2	1	受験者数(人)	2	1
合格者数(人)	36	73	29	1	合格者数(人)	37	44	16	0	2	合格者数(人)	7	7	1	2	0	合格者数(人)	1	2	1	合格者数(人)	1	1
倍率(倍)	1.7	3.9	6.3	12.0	倍率(倍)	1.6	2.3	4.8	-	2.0	倍率(倍)	1.0	1.4	2.0	2.0	-	倍率(倍)	1.0	1.0	1.0	倍率(倍)	2.0	1.0

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先 〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
 大学院／看護栄養学研究科
 助産研究科(専門職学位課程)

第23号 2017年6月8日 発行 天使大学広報委員会

<http://www.tenshi.ac.jp>